

## 皮膚科学講座

講座担当教授：	朝比奈昭彦	乾癬，アトピー性皮膚炎
教授：	石地 尚興	皮膚リンパ腫，ヒト乳頭腫ウイルス感染症，皮膚アレルギー学
教授：	梅澤 慶紀	乾癬
准教授：	太田 有史	神経線腫症
准教授：	延山 嘉真	皮膚悪性腫瘍
准教授：	伊藤 寿啓	乾癬，光線療法
准教授：	築場 広一	膠原病，乾癬
講師：	石氏 陽三	アトピー性皮膚炎，レーザー治療
講師：	勝田 倫江	ヒト乳頭腫ウイルス感染症
講師：	遠藤 幸紀	乾癬

### 教育・研究概要

#### I. 乾癬

乾癬では、ステロイドと活性型ビタミン D<sub>3</sub> 製剤を用いた外用療法は治療の基本となっている。内服療法としてシクロスポリン MEPC、エトレチネートがあり、さらに全身照射型の Narrow-band UVB、308nm excimer lamp を設置し、積極的に光線療法を行っている。また、生物学的製剤では、抗 TNF $\alpha$  製剤としてインフリキシマブ、アダリムマブ、抗 IL-12/23p40 製剤としてウステクヌマブ、抗 IL-23p19 製剤としてグセルクマブ、抗 IL-17A 製剤としてセクキヌマブ、イクセキズマブ、抗 IL-17 受容体製剤としてプロダルマブが治療適応となっており、難治性重症乾癬患者の治療の選択肢がさらに増えた。治療法の選択には疾患の重症度に加え、患者の QOL の障害度、治療満足度を考慮することが重要である。そのために QOL 評価尺度である Psoriasis Disability Index の日本語版を応用し、患者 QOL の向上に役立てている。また、メタボリック症候群の精査も行い、高血圧、高脂血症の治療も合わせて行っている。さらに乾癬の重症度と労働生産性に関する疫学調査も行っている。また、乾癬性関節炎に関しては、積極的に Dual Energy CT などの画像診断を行うことにより早期診断を行い、早期治療が可能となった。

当施設では、乾癬の患者数が多いことから、新薬の臨床試験を行う機会も多く、生物学的製剤（複数）

や新規外用薬の治験を適宜実施している。

#### II. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の発症にはバリア機能異常の側面、アレルギー・免疫異常の側面、心理社会的側面など複数の要因が関与している。当科ではバリア機能異常に対する対応として保湿剤の使用を勧めている。また、アレルギー的側面については、血液検査を中心にアレルゲンの同定を行っている。心理社会的側面については、アトピー性皮膚炎患者の QOL は種々の程度に障害されていることが明らかになっている。治療は EBM に則った外用・内服療法といった標準的治療を基本に、重症患者にはシクロスポリン MEPC 内服療法などを行っている。また、新しい治療法としてヒト型抗ヒト IL-4/13 受容体モノクローナル抗体であるデュピルマブが承認され、積極的に治療を行っている。

#### III. 皮膚悪性腫瘍

当科では皮膚悪性腫瘍、軟部悪性腫瘍全般を扱っている。内訳は悪性黒色腫、有棘細胞癌、乳房外パジェット病、基底細胞癌、皮膚悪性リンパ腫、隆起性皮膚線維肉腫、悪性末梢神経鞘腫瘍など多彩にわたっており、国内でも屈指の症例数がある。治療方針は皮膚悪性腫瘍ガイドライン、皮膚悪性腫瘍取り扱い規約に基づき、治療方針を決めている。

色素性病変症例では全例でダーモスコピー検査を実施している。また、悪性黒色腫を中心に RI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検も積極的に行っている。皮膚悪性腫瘍は積極的に手術治療を行っている。進行期症例に対して、免疫チェックポイント阻害療法・分子標的療法・化学療法・放射線療法などを施行している。またがん患者の精神的なケアについて配慮し、がん性疼痛に対しても積極的な治療により、疼痛をほぼ感じることなく日常生活が過ごせるよう緩和ケアを病院の緩和ケアチームと協力して行っている。

#### IV. 神経線維腫症

神経線維腫症外来は、本邦で最も患者が多い外来（年間約 900 人）である。全国より患者が紹介されるため、診断のみでなく長期のフォローアップに加え、患者の QOL 向上を目指して積極的に皮膚腫瘍の切除を外来、入院で行っている。

神経線維腫症 1 型 (NF1) 患者 216 例中 185 例 (85.6%) に病因と考えられる NF1 遺伝子変異が判明した。これまでの報告で NF1 遺伝子変異と臨床

症状の相関は、一部の例外を除いて存在しないことが分かった。そこで、様々な臨床症状の出現頻度と重症度、合併する際の相関関係(オッズ比)について、米の報告と比較検討した。皮膚神経線維腫(>100個)とMPNSTの合併、spinal neurofibromatosisと側弯の合併において関係性が示唆された。明らかな有意差は得られなかったが、この2つに関してはスタンフォード大学皮膚科の報告と同様の結果であった。これ以外の組み合わせの相関はなかった。NF1は個々の患者にすべての症候が生じるわけではなく、それぞれに出現頻度が違い、重症度もさまざまである。その理由は定かではないが、日本と米国間にも報告に差があるため、日本人特有の好発症状を意識して診療することが重要である。

#### V. ヘルペスウイルス感染症

単純ヘルペスは、性器ヘルペスおよび難治性口唇ヘルペス、顔面ヘルペス患者などの治療を行っている。ウイルス特異的抗原に対する蛍光抗体法や、イムノクロマト法を用いた簡易キットで、迅速な診断を行っている。再発を繰り返す再発型性器ヘルペス患者には、バラシクロビルを用いた再発抑制療法を中心に行っている。

帯状疱疹は、皮疹が出現初期から帯状疱疹後神経痛(PHN)を発症した患者を含め総括的に治療を行っている。急性期痛、PHNを伴う患者ではステロイド、三環系抗うつ薬、オピオイド、プレガバリンを含めた抗てんかん薬、トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠、トラマドールなどを積極的に用い徐痛を図っている。

#### VI. ヒト乳頭腫ウイルス感染症

尋常性疣贅では、一般的な液体窒素凍結療法に加え、難治例では活性型ビタミンD<sub>3</sub>軟膏密封療法、50%サリチル酸絆創膏貼付療法、グルタルアルデヒド塗布療法、モノクロロ酢酸塗布などを組み合わせ、治療効果をあげている。さらに難治なものに対してはSADBEによる接触免疫療法、くりぬき法(イボ剥ぎ法)による外科的切除や炭酸ガスレーザーによる蒸散術を施行している。また、尖圭コンジローマに対しては、イミキモドクリーム外用や液体窒素凍結療法、電気メスによる焼灼や炭酸ガスレーザーによる蒸散に加え、トリクロロ酢酸外用療法やポドフィリン外用療法を施行している。ハイリスクヒト乳頭腫ウイルス感染が疑われる症例では、PCR法やin situ hybridization法を用いたヒト乳頭腫ウイルスの型判定やP16免疫染色による検討も行って

いる。

#### VII. パッチテスト

接触皮膚炎、金属アレルギー、薬疹などの評価としてパッチテストやプリックテスト、薬剤内服チャレンジテストなどを行っている。金属そのものによる接触皮膚炎の他、掌蹠膿疱症や扁平苔癬、貨幣状湿疹などの皮膚疾患に対する金属アレルギーの関与についても評価を行っている。

検査はジャパニーズスタンダードアレルギーのパッチテストパネルを使用し、患者持参の化粧品やシャンプー、外用剤などの各種アレルギーについても試薬を調整し評価を行っている。

#### VIII. レーザー治療

Qスイッチルビーレーザー治療では、太田母斑、老人性色素斑の成績が良く、老人性色素斑ではほとんど1回の照射で改善した。他方、データ解析を行い、扁平母斑及び神経線維腫症のカフェオレ斑の有効率が低いことなどを明らかにした。パルス色素レーザー治療では、単純性血管腫や莓状血管腫、毛細血管拡張症などに照射し、有効であった。ウルトラパルス炭酸ガスレーザーは脂漏性角化症、汗管腫、眼瞼黄色腫などに対し高い治療効果が得られた。

#### IX. スキンケア外来

乾癬、白斑、皮膚T細胞性リンパ腫、痒疹等に対してNarrow-band UVB、308nm excimer lamp照射装置を併用して治療を行い、高い治療効果を得ている。

また、専門美容技術指導員が個人指導する「スキンケアレッスン」、「アクネケア」により、治療上の様々な問題点を見出し、改善することによって治療の助けになっている。

#### 「点検・評価」

乾癬外来では各治療法のRisk/Benefit Ratioを考慮し、患者のQOLを高める治療計画確立、治療アドヒアランスの向上を目指している。また、全身照射型のNarrow-band UVB、308nm excimer lampを積極的に稼働させている。また、東京の患者友の会と共同して乾癬患者を対象にした学習懇談会、市民公開講座を定期的に行う予定である。また、生物学的製剤の使用、臨床試験も積極的に取り組んでいる。また、乾癬の合併症として注目を浴びているメタボリック症候群の検索ならびに治療も積極的に行っている。

神経線維腫症に関しては、当科における専門外来の存在が広く知られているためか、これまで以上に多くの患者が紹介受診し、遺伝相談も積極的に行っている。臨床・基礎研究では悪性末梢神経鞘腫瘍についての早期診断に加え、遺伝子異常の検索を続けている。また、患者QOL向上を目指して積極的に神経線維腫の手術にも取り組んでいる。

ヘルペス外来では、ヘルペスウイルス感染症の早期診断、型分類も行っている。また、性器ヘルペスの抑制療法、帯状疱疹後神経痛の治療についても積極的に取り組んでいる。

ヒト乳頭腫ウイルス感染症は難治例も多く、通常の治療に加え、特殊療法も重症度に応じて、行っている。尖圭コンジローマの治療も積極的に行っている。

パッチテスト外来では、食物によるアナフィラキシーの原因追及、接触皮膚炎、薬疹などの原因物質の同定を行っている。

アトピー性皮膚炎の臨床面では、EBMに基づく治療のみならず、患者のQOLの障害の程度を考慮した日常診療を行っている。中でもスキンケアの重要性を患者に自覚してもらうため、スキンケア外来でのスキンケアレッスンの普及に努めている。心身医学的配慮が必要な患者にはメンタルケア外来を設けて対応している。本学独自の患者の会を中心に息の長い活動も行っている。

皮膚悪性腫瘍は、手術症例も多く、悪性黒色腫、乳房外パジェット病について国内でも屈指の経験例を有する。センチネルリンパ節生検も積極的に行っている。悪性黒色腫のフェロン維持療法の研究組織は当科が中心となって行っている。

レーザー治療外来では、数種類のレーザー機器を用いて多数の症例を治療している。蓄積されたデータをもとに適切な時期に適切な機器で治療を行えるようになっている。

膠原病は長期経過の中で様々な合併症を生じる疾患群であるため、今後も他科との連携を保ちつつ、継続して治療を行うことが重要であると考えている。

全体として、様々な難治性皮膚疾患に関する広範な臨床研究に加え、臨床に還元できる基礎的研究が進行していることが特徴である。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) [Watanabe Y](#), [Itoh M](#), [Nakagawa H](#), [Asahina A](#), [Nobeyama Y](#). Role of interleukin-24 in the tumor-suppressive effects of interferon- $\beta$  on melanoma. *Exp Dermatol* 2019; 28(7): 836-44.
- 2) [Saeki H](#), [Terui T](#), [Morita A](#), [Sano S](#), [Imafuku S](#), [Asahina A](#), [Komine M](#), [Etoh T](#), [Igarashi A](#), [Torii H](#), [Abe M](#), [Nakagawa H](#), [Watanabe A](#), [Yotsuyanagi H](#), [Ohtsuki M](#); Biologics Review Committee of the Japanese Dermatological Association for Psoriasis. Japanese guidance for use of biologics for psoriasis (the 2019 version). *J Dermatol* 2020; 47(3): 201-22.
- 3) [Tomonari M](#), [Shimada M](#), [Nakada Y](#), [Yamamoto I](#), [Itoh M](#), [Koike Y](#), [Kobayashi A](#), [Miki J](#), [Yamada H](#), [Kimura T](#), [Saito S](#), [Sugano K](#), [Sekine S](#), [Yamamoto H](#), [Asahina A](#), [Yokoo T](#). Muir-Torre syndrome: sebaceous carcinoma concurrent with colon cancer in a kidney transplant recipient; a case report. *BMC Nephrol* 2019; 20(1): 394.
- 4) [Waki Y](#), [Nobeyama Y](#), [Fukuchi O](#), [Mukai T](#), [Takagi M](#), [Asahina A](#). Case of herpes zoster complicated by diaphragmatic paralysis. *J Dermatol* 2019; 46(9): e322-4.
- 5) [Mizuno S](#), [Itoh M](#), [Matsuo H](#), [Kikuchi S](#), [Asahina A](#). Case of ultraviolet B-mediated photosensitivity during the administration of voriconazole. *J Dermatol* 2019; 46(9): e327-8.
- 6) [Kurita M](#), [Chihara M](#), [Itoh M](#), [Asahina A](#), [Yamamoto K](#), [Yanaba K](#). Hearing loss caused by discoid lupus erythematosus of the ear canal successfully treated with hydroxychloroquine. *J Dermatol* 2019; 46(9): e313-4.
- 7) [Abe K](#), [Itoh M](#), [Asahina A](#). Rituximab-induced vasculitis: Does the immune complex of rituximab play a key role in developing paradoxical adverse events? *J Dermatol* 2019; 46(9): e311-2.
- 8) [Kikuchi S](#), [Nobeyama Y](#), [Saeki H](#), [Asahina A](#). Characteristics of cutaneous adverse drug reactions caused by triple-combination drug therapy used for *Helicobacter pylori* eradication. *J Dermatol* 2020; 47(3): 277-82.
- 9) [Waki Y](#), [Nobeyama Y](#), [Fukuchi O](#), [Kamii Y](#), [Asahina A](#). A case of bullous pemphigoid associated with interstitial pneumonia. *Australas J Dermatol* 2020; 61(2): e247-9. Epub 2019 Dec 9.
- 10) [Waki Y](#), [Nobeyama Y](#), [Ogawa T](#), [Fukuchi O](#), [Fukazawa N](#), [Asahina A](#). Case of extramammary Paget's disease causing pulmonary tumor embolism. *J Dermatol* 2020; 47(4): e133-4. Epub 2020 Feb 13.
- 11) [Morishima-Koyano M](#), [Nobeyama Y](#), [Fukasawa-Momose M](#), [Kikuchi S](#), [Asahina A](#). Case of pemphigus foliaceus misdiagnosed as a single condition of erythrodermic psoriasis and modified by brodalumab. *J*

- Dermatol 2020; 47(5) : e201-2. Epub 2020 Mar 2.
- 12) Ito M, Hirota T, Momose M, Ito T, Umezawa Y, Fukuchi O, Asahina A, Nakagawa H, Tamari M, Saeiki H. Lack of association of TNFA, TNFRSF1B and TNFAIP3 gene polymorphisms with response to anti-tumor necrosis factor therapy in Japanese patients with psoriasis. J Dermatol 2020; 47(4) : e110-1. Epub 2019 Dec 23.
- 13) Kayama R, Fukuda T, Ogiwara S, Momose M, Tokashiki T, Umezawa Y, Asahina A, Fukuda K. Quantitative analysis of therapeutic response in psoriatic arthritis of digital joints with Dual-energy CT iodine maps. Sci Rep 2020; 10(1) : 1225.
- 14) Katsuta M, Asahina A, Shiohara T. Multiple fixed drug eruption mimicking parapsoriasis en plaque in a patient with hepatitis C virus infection. Case Rep Dermatol 2020; 12(1) : 25-32.
- 15) Matsuo H, Yanaba K, Umezawa Y, Nakagawa H, Muro Y. Anti-SAE antibody-positive dermatomyositis in a Japanese patient : a case report and review of the literature. J Clin Rheumatol 2019; 25(7) : e115-6.
- 16) Ishiuji Y. Addiction and the itch-scratch cycle. What do they have in common? Exp Dermatol 2019; 28(12) : 1448-54.
- 17) Mitsuyoshi Y, Takakura K, Kobayashi T, Ogawa N, Sakurai T, Nakano M, Ukichi T, Ishiuji Y, Torisu Y, Saruta M. Chronic intestinal pseudo-obstruction with pneumatosis cystoides intestinalis in a patient with systemic sclerosis : a case report. Medicine (Baltimore) 2019; 98(18) : e15480.
- 18) 金谷瑠奈, 石地尚興, 朝比奈昭彦. 80%トリクロロ酢酸を用いて治療した肛門内尖圭コンジローマの5例. 日性感染症会誌 2019; 30(1) : 109-11.
- 19) 阿部佳奈美, 石地尚興, 朝比奈昭彦. 人間ドックで発見された内耳梅毒の1例. 日性感染症会誌 2019; 30(1) : 105-8.
- 20) 中島玲華, 延山嘉真, 神部正弘, 間中結香, 山口貴子, 小林 光, 福地 修, 朝比奈昭彦. 若年女性の外陰部に播種状に多発した verruciform xanthoma の1例. 臨床 2020; 74(1) : 87-90.
- 21) 藤井鷹矢, 築場広一, 千原真未, 栗田美紀, 朝比奈昭彦. 【4疾患からみる膠原病のいま】ヒドロキシクロキシンが著効した小児円板状エリテマトーデスの1例. 皮膚臨床 2019; 61(12) : 1826-7.
- 22) 盛島美弥, 宇野 優, 延山嘉真, 石地尚興, 朝比奈昭彦, 幸田公人. 【色のついた皮膚病《白と黄》】臨床例 hereditary papulotranslucent acrokeratoderma. 皮膚診療 2019; 41(11) : 1057-60.
- 23) 山口貴子, 福地 修, 伊東慶悟, 延山嘉真, 朝比奈昭彦. 【悪性上皮系腫瘍】背部巨大基底細胞癌に連続してケロイド様結節を認めた1例. 皮膚臨床 2019; 61(10) : 1471-4.
- 24) 朝比奈昭彦, 梅澤慶紀, 大槻マミ太郎, 奥山隆平, 加藤則人, 金子敦史, 亀田秀人, 岸本暢将, 佐野栄紀, 多田弥生, 照井 正, 長谷川友紀, 福田国彦, 森田明理, 山本俊幸, 中川秀己. 乾癬性関節炎の患者診療における医師間連携の実態調査. 日皮会誌 2019; 129(9) : 1887-9.
- 25) 山口貴子, 本田ひろみ, 石氏陽三, 延山嘉真, 石地尚興, 中川秀己, 朝比奈昭彦. 慢性放射線皮膚炎に難治性足潰瘍を生じた2例. 皮膚臨床 2019; 61(7) : 1103-6.

## II. 総 説

- 1) 朝比奈昭彦. Psoriasis INTERFACE Questions from Rheumatologist to Dermatologist Dermatologist の立場から. The Psoriasis 2019; 2019 : 22-3.
- 2) 朝比奈昭彦. 各科臨床のトピックス 乾癬性関節炎診療ガイドライン. 日医師会誌 2020; 148(11) : 2202-3.
- 3) 朝比奈昭彦, 梅澤慶紀, 大槻マミ太郎, 奥山隆平, 加藤則人, 金子敦史, 亀田秀人, 岸本暢将, 佐野栄紀, 多田弥生, 照井 正, 中川秀己, 長谷川友紀, 福田国彦, 森田明理, 山本俊幸, 井汲菜摘, 岡野匡志, 岡本奈美, 高井千夏, 福田健志, 村島温子, 森 雅亮. 日本皮膚科学会ガイドライン 乾癬性関節炎診療ガイドライン 2019. 日皮会誌 2019; 129(13) : 2675-733.
- 4) 唐川 大, 朝比奈昭彦. 乾癬と掌蹠膿疱症における IL-23 について. リウマチ科 2019; 62(6) : 547-53.
- 5) 朝比奈昭彦. スキルアップのための Q&A 乾癬は治らない皮膚病なのですか? 皮膚アレルギーフロンテ 2019; 17(2) : 128.
- 6) 大槻マミ太郎, 佐伯秀久, 照井 正, 森田明理, 佐野栄紀, 今福信一, 朝比奈昭彦, 小宮根真弓, 江藤隆史, 鳥居秀嗣, 安部正敏, 五十嵐敦之, 中川秀己, 渡辺 彰, 四柳 宏. 日本皮膚科学会マニュアル 乾癬における生物学的製剤の使用ガイダンス (2019年版). 日皮会誌 2019; 129(9) : 1845-64.
- 7) 朝比奈昭彦. 【帯状疱疹の新時代 - 診療の基本と最新情報 -】(Dermatological View 02) 薬剤誘発性帯状疱疹. Visual Dermatol 2019; 18(9) : 935-9.
- 8) 梅澤慶紀, 朝比奈昭彦. 【医薬品副作用学 (第3版) 上 - 薬剤の安全使用アップデート -】薬効群別副作用皮膚疾患治療薬 (外用薬). 日臨 2019; 77(増刊3 医薬品副作用学 (上)) : 355-61.
- 9) 吉原有希, 梅澤慶紀, 朝比奈昭彦. 【変わりつつあるアトピー性皮膚炎の常識 - 最新の知識と治療の極意】(第I章) 最新の知識 従来の治療法の新しい考え方 内服療法 b) シクロスポリン. 皮膚臨床 2019;

61(6) : 877-81.

- 10) 梅澤慶紀, 間中結香, 朝比奈昭彦. 【最近のトピックス 2019 Clinical Dermatology 2019】最近話題の皮膚疾患 Blaschkitis. 臨皮 2019 : 73(5) : 23-6.

### III. 学会発表

- 1) Katsuta M, Ishiui Y, Yasuda K, Matsuzaki H, Nobeyama Y, Ishiji T, Asahina T. Analysis of related factors of eye complications during dupilumab treatment for Japanese patients with atopic dermatitis. 10th World Congress on Itch. Sydney, Nov.
- 2) Yasuda K, Ishiui Y, Katsuta M, Matsuzaki H, Nobeyama Y, Ishiji T, Ota A, Asahina A. Successful treatment of dupilumab in the neurofibromatosis type 1 patient with atopic dermatitis. 10th World Congress on Itch. Sydney, Nov.
- 3) Asahina A, Umezawa Y, Sakurai S, Hoshii N, Nakagawa H. (Poster) Efficacy and safety of certolizumab pegol in the treatment of Japanese patients with psoriasis : interim week 24 analyses from a 52-week phase 2/3, randomised, placebo-controlled study. 28th EADV (European Academy of Dermatology and Venereology) Congress. Madrid, Oct.
- 4) Itoh M, Kawagoe S, Tamai K, Nakagawa H, Asahina A, Okano JH. Footprint-free gene mutation correction in induced pluripotent stem cell (iPSC) derived from recessive dystrophic epidermolysis bullosa (RDEB) using CRISPR/Cas9 and piggyBac transposon system. 49th Annual ESDR (European Society for Dermatological Research) Meeting. Bordeaux, Sept.
- 5) Chihara M, Kurita M, Yoshihara Y, Asahina A, Yanaba K. (Oral) Clinical significance of serum Galectin-9, Soluble LAG-3, and CD155 levels in patients with systemic sclerosis. 日本研究皮膚科学会 第44回年次学術大会・総会. 青森, 11月.
- 6) Chihara M, Kurita M, Yoshihara Y, Asahina A, Yanaba K. (Poster) Clinical significance of serum Galectin-9 and Soluble CD155 levels in patients with systemic sclerosis. 28th EADV (European Academy of Dermatology and Venereology) Congress. Madrid, Oct.
- 7) 中條聡美, 石地尚興, 朝比奈昭彦. (口頭) 疣贅状表皮発育異常症 (Epidermodysplasia verruciformis : EV) 病変部における p16INK4a 発現に関する検討. 第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 金沢, 10月.
- 8) 福田浩孝, 谷戸克己, 太田有史, 新村真人, 朝比奈昭彦, 木下智樹, 加藤久美子, 鳥海弥寿雄, 武山 浩. (口頭) 乳癌を合併した神経線維腫症1型の6例. 第10回日本レックリングハウゼン病学会学術大会. 名古屋, 2019年2月.
- 9) 勝田倫江, 石氏陽三, 安田健一, 松崎大幸, 延山嘉真, 石地尚興, 朝比奈昭彦. (口頭) アトピー性皮膚炎患者のデュピルマブ治療中に生じた結膜炎の関連因子解析. 第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会. 横浜, 11月.
- 10) 九穂尚子, 延山嘉真, 中條聡美, 脇 裕磨, 渡邊淑識, 伊藤宗成, 伊藤秀記, 朝比奈昭彦. (口頭) 早期菌状肉腫における大細胞転化病変の自然消退例. 第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 神戸, 5月.
- 11) 間中結香, 松尾光馬, 中澤 靖, 石地尚興, 朝比奈昭彦. (口頭) HIV感染者に生じた伝染性軟属腫の1例. 日本性感染症学会第32回学術学会. 京都, 11月.
- 12) 小笹美蘭, 中條聡美, 延山嘉真, 石地尚興, 朝比奈昭彦. (口頭) 梅毒疹が潰瘍化したHIV合併第2期梅毒の1例. 日本性感染症学会第32回学術学会. 京都, 11月.
- 13) 安田健一, 石地尚興, 太田有史, 延山嘉真, 朝比奈昭彦. (口頭) イマチニブを2年間投与したGIST合併神経線維腫症1型の1例. 第10回日本レックリングハウゼン病学会学術大会. 名古屋, 2019年2月.
- 14) 中條聡美, 脇 裕磨, 渡邊淑識, 伊藤宗成, 延山嘉真, 市原巧介, 朝比奈昭彦. (口頭) 涙囊原発悪性黒色腫の1例. 第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 神戸, 5月.
- 15) 朝比奈昭彦. (教育講演48 : 分子標的薬の副作用) サイトカイン阻害薬 : 副作用とその対策. 第118回日本皮膚科学会総会. 名古屋, 6月.
- 16) 朝比奈昭彦. (教育講演7 : 乾癬性関節炎の疫学, 病態, 治療とガイドライン策定) PsA診療ガイドラインの策定. 第118回日本皮膚科学会総会. 名古屋, 6月.
- 17) 梅澤慶紀, 櫻井伸也, 星井直樹, 中川秀己. 乾癬患者を対象としたセルトリズマブペゴルの国内第2/3相試験(PS0017) : 52週までの有効性と安全性の検討. 第83回日本皮膚科学会東京・東京支部合同学術学会. 東京, 11月.